

「インドネシア共和国における就農青年を対象とするトレーニング農場運営
および田原市における技能実習生との協働促進」

— インドネシア共和国バトゥ市視察 —

日 時	平成 30 年 1 月 14 日～20 日
視察場所	インドネシア共和国バトゥ市 ・トレーニング農場 ・バトゥ市役所 ・バトゥ農業高校 ・観光農園（イチゴ）
宿泊場所	ジャカルタ グランド サヒド ジャヤ バトゥ クスマ アグロウイサタ
行 程	13 日 東京前泊（京急 E X イン羽田） 14 日 羽田（11:45）～ジャカルタ（17:30） 9:30 ガルーダ航空チェックインカウンターへ 15 日 ジャカルタ（11:40）～マラン（12:25）～車でバトゥ市へ バトゥ市ホテルへ着（13:10） 16 日 農場視察（9:30 発）、バトゥ市役所訪問（労働局長） ミーティング（14:00～17:30） 17 日 農業高校訪問（10:00～12:00） 18 日 イチゴ農園視察（バトゥ市営）、ミーティング（16:00～17:30） 19 日 川崎氏東ティモールへ LPKCOOP Indonesia 事務所訪問 マラン（13:10）～ジャカルタ（14:45）まで帰国の途（佐原氏と別れる） ジャカルタ（11:50）～羽田（20 日 8:50） 20 日 田原市

<名刺交換>

- ① LPKCOOP Indonesia CEO HERSON TENDEAN (ヘルソン ディンデアン)
- ② LPKCOOP Indonesia Executive Director PAMUJI HARTON (パムジ ハルトノ)
- ③ RPK HURUSATO Indonesia Chairman IRWAN ARDIYANT (イールワン)
- ④ RPK HURUSATO Indonesia Staff BATRA TANSATRISNA (バトラ タンサトリスナ)
- ⑤ RPK HURUSATO Indonesia Staff AGUS ROHMADI (アグス ロマデイ) 実習生経験者
- ⑥ 通訳 (プトゥリ) : (フルサト財団 2019 年 4 月 1 日採用) 名刺無
- ⑦ ㈱ブランギコンサルタンツインドネシア 社長 佐原 利之 (フルサト財団顧問・通訳)



— トレーニングファーム（農場）の現状と対策 —

- 1、場 所 バトゥ市郊外（東部ジャワ島）
- 2、面 積 10,000 m² (3,000 坪)
- 3、地 形 丘陵地帯・標高 1,000m、
- 4、設 備 600 m² (200 坪) のフレーム3棟建設予定、貯水槽2棟（沢からポンプアップ）
休憩小屋1棟、トイレ（建設予定）
- 5、管 理 専任ワーカー1人
- 6、農産物 メロン、イチゴ、ミニトマト、ブロッコリー、他
- 7、名 称 TAHARA を入れたファームの名称検討中
- 8、その他 オーガニック栽培

<今後の対策>

- ・現在スーパーマーケットにて試用販売をしているが、もし契約となれば、生産・品質等の見込み計画が必要。
- ・農業指導（青山氏）のネットワーク、月1回指導を受けられる体制整備。
- ・現在農場はワーカー1人で管理しているが、1人では無理がある。アドバイザーが必要。
アドバイザーの確保
- ・帰国した実習生をトレーニングファームでの養成を如何にするか。農業の起業をどのように指導するか。
- ・バトゥ市の農業支援を確実に得られるように連携を深める。
- ・青山氏の年2回現地農場入りは何時がよいか。植付時期の6月？月がよい？
- ・害虫駆除はどこで指導を仰ぐか。農場試験場？
- ・オーガニック栽培は量産が望めない。少量でも高く売れるよう販路の開拓が必要。
（インドネシアにもオーガニック店はある）
- ・この農場は高地なので平地での栽培方法は異なる。対策は？



— ふるさと財団の現状と今後の運営方針 —

- 1、名 称 RPK HURUSATO Indonesia (ふるさと財団=YAYASAN)
- 2、常勤職員 3名
- 3、代 表 者 RPK HURUSATO Indonesia Chairman IRWAN ARDIYANT (イールワン)
- 4、母体会社 LPKCOOP Indonesia (実習生送出し機関)
- 5、U R L <https://www.furusatoindonesia.com>
- 6、運営内容
 - ①トレーニングファームの建設と運営
 - ②実習生事前教育の充実
 - ③帰国実習生の育成
 - ④農業起業の指導
 - ⑤農産物の試作と販売 (メロン・イチゴ・ミニトマト・ブロッコリー他)
 - ⑥観光農園としての機能の充実
 - ⑦目的達成の事業

<対策と今後の方針>

- ・青山氏に頼るだけでなく地元に農業アドバイザーを育成する
- ・バトゥ市・農業高校との連携強化を図る
- ・バトゥ市の紹介ビデオを編集？
- ・田原市・ふるさと財団 Web ビデオミーティング (Web 会議) が出来る環境を構築する
- ・トレーニングファームの名称を決める (TAHARA を入れた名称に)
- ・2から3年の運営計画を策定する
- ・ふるさと財団独自の運営マニュアルを作成する
- ・事業内容を4半期ごとに With へ報告
- ・



— With の業務（案） —

- 1、事業の名称 「インドネシア共和国における就農青年を対象とするトレーニング農場運営
および田原市における技能実習生との協働促進」
- 2、実施の期間 2019/4/1~2022/3/31 3カ年
- 3、目的 田原市では 1000 名を超える外国人が技能実習を行っているが、彼等の実習経験が故郷にて生かされていない。こうした中、インドネシア現地で技能実習生の帰国支援を行う非営利団体フルサト財団（インドネシア現地法人）との交流が始まった。そこで、フルサト財団と当機構が協力をして、日本で農業技能実習を受けた青年たちを対象にしたトレーニング農場をインドネシアに開設し、彼らが故郷で農業に従事する際のサポートをする事業を推進していくことと同時に、彼らが田原市に滞在している間も、農業分野での技能実習がより良く行われるように地域ぐるみでフォローアップをしていくことを目的とする。
- 4、事業内容 ①インドネシア共和国バトゥ市でのトレーニング農場運営事業
②田原市での技能実習生サポート事業
- 5、事業計画 別紙
- 6、予算 収入：日本国際協力財団（東京都）の助成金
1カ年 1,100 万円×3カ年≒3,300 万円

— バトゥ市農業高校訪問 —

<意見交換内容>

- ・川崎：日本の高校にはクラブ活動がある。外国の高校とインターネット等を通して交流できるクラブ活動を作りたい。バトゥ市の農業高校と田原市の農業高校が交流できるとよいですね
- ・高校：高校としても国際交流は考えている。
- ・川崎：交流を深めることにより、技能実習生が安心して田原へ来られる。また、地元の農家も安心して受入ができる。
- ・榊原：川崎氏の紹介をする。また、NPO 法人ウィズの役員がバトゥ市へ来られるように検討。
- ・川崎：農業アドバイザーの紹介を。
- ・高校：バトゥ市役所に相談を。



バトゥ市農業高校教師



— バトゥ市役所訪問 —

<意見交換>

- 1、訪問日 2019/1/16
- 2、対応者 バトゥ市労働局長
- 3、意見交換 事業の目的・事業主体等説明。協力を求める。
市側：協力は惜しまない。
- 4、その他 田原市には1000名ほどの実習生が働いています。その中で、インドネシアの実習生は100名います。



バトゥ市労働局長



— バトゥ市イチゴ農園視察 —

- 1、運営母体 バトゥ市
- 2、内 容 観光農園（イチゴ狩り）
- 3、そ の 他 視察中にバトゥ市の担当職員が来られ意見を交わした。



バトゥ市職員

